

武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。今年度も保護者・地域住民の皆様には学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていたるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

令和4年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立（山内東）小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	5年時	6年時	5年時	6年時	5年時	6年時
H29 入学 現 6年生	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	全国 (4月)
	59.4 (0.94)	57 (0.89)	44.2 (0.85)	61 (0.98)		52 (0.84)
R4 正答率の全国比	0.87			0.97		0.82

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和4年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査の結果から】

国語科については全国比で0.87と全国よりも低い。観点別では「思考・判断・表現」が低い結果であった。領域では「話す・聞く」「読むこと」が全国との差が大きい。特に課題が見られた問題は、「登場人物の気持ちや行動について叙述を基にとらえる」「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」であった。読みの指導においては、叙述を基に考えていくことが基本である。また、この2つの問題はいずれも当てはまる答えを2つ選ぶ問題であったが、1つの答えは選んでいるがもう1つが選べていないために正答にならないという状況が多く見られた。

算数科においては、全国比で0.97と全国の平均とほぼ同じである。観点別では、「思考・判断・表現」が全国と比べてやや低い結果であった。特に課題が見られたのは、「割合」の問題で、「百分率で表された割合を分数で表すこと」「数量が変わっても割合は変わらないこと」であった。「割合」の学習は依然として児童にとって難易度の高い内容である。算数科の結果については、昨年度の県学習状況調査の結

果と比較すると、大きく向上している。少人数指導やT T指導に取り組んできた成果が出たものと考えられる。

理科については、全国比で0.82と全国よりも低い。観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現力」で低い結果となっている。問題内容を見ると、3・4年生の学習内容からの出題が多かったものの、単に知識を問う問題は少なく、学習問題の設定、実験方法の妥当性、結果のまとめ方など理科学習の学び方に関する問題が多かった。学習指導において、結果としての知識・理解だけを重視するのではなく、学び方の指導を今後大事にしていく必要がある。

【意識調査の結果から】

全国と比べてポイントが高かった項目は、生活に関する項目では、「朝食を毎日食べているか」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しているか」「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあるか」「今住んでいる地域の行事に参加しているか」などであった。反面「毎日同じくらいの時間に寝ているか」「自分には良いところがあるか」などについてやや低い結果となった。

学習に関する項目では、「学習でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度利用しているか」「友達と意見交換をする場面」や「自分の考えをまとめ、発表する場面」で「ICT機器をどの程度利用しているか」などICT機器の利用に関する項目が高かった。反面低かった項目は、「自分と違う意見について考えるのは楽しいか」「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」「土日など学校が休みの日にどれくらい勉強しているか(塾なども含む)」など授業中の学び合いや家庭学習に関する項目であった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 西部型授業の充実を通して、主体的な学習態度を高めていくこと

- ・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用し、「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「ふりかえり」のステップを意識した授業を継続して実践する。
- ・国語科では、読み取る際に根拠となる叙述にサイドラインを引いたり、キーワードを抜き出したりして、叙述にかえる指導が有効である。物語文の読み取り、論理的な文章の読み取りなど文章に応じた読み取りの技能を意識して指導を行うことが必要である。
- ・算数科では、問題文を読んで、問題場面を具体的にイメージすることが重要である。問題把握をしつかりさせるために、分かっていること、問われていることなどに、下線を引いたり、絵や図に表したりしながら問題を理解させる。

2 書く活動の充実と協働的な学習の充実

- ・西部型授業とも連携し、自分の考えをノートやワークシートに書く場を積極的に取り入れていく。書く際には、文章だけでなく絵や図、式など多様な表現方法に広げていく。
- ・書いたことを発表に生かし、グループや全体の場での練り合いを通して、それぞれの考えを高めていくことで伝え合う楽しさを育てていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 家庭学習の充実を図り、児童によりよい生活習慣や学習習慣を身につけさせる。

- ・各学年で家庭学習の内容や学習時間を共通理解し、生活チェックカードを利用し、家庭学習の定着を図る。
- ・自主学習を推奨し、児童の自主学習ノートを紹介し合い、自主学習の内容を高めていく。

2 読書の充実

- ・家庭での読書を奨励し、読書も家庭学習の1つとして位置付ける。週末において、読書に取り組むよう声かけを行う。